

達第三十六號

敷設船勝力ヲ帝國軍艦ト定メ勝力ト命名セラル

大正九年四月一日

海軍大臣

加藤友三郎

達第三十七號

艦艇類別標準中左ノ通改定セラル

大正九年四月一日

海軍大臣

加藤友三郎

別表中巡洋艦ノ欄ノ次ニ左ノ三欄ヲ加フ

航空母艦		
水雷母艦		
敷設艦		

四十二

海軍

達第三十八號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

大正九年四月一日

海軍大臣

加藤友三郎

巡洋艦一等ノ欄内「阿蘇」同二等ノ欄内「津輕」ヲ削ル

海防艦二等ノ欄内「韓崎」朝鮮、若宮「ヲ削ル

巡洋艦ノ欄ノ次ニ左ノ如ク加フ

航空母艦	若宮
水雷母艦	韓崎、朝鮮
敷設艦	阿蘇、津輕、勝力

1914

第三十九號

特務艦艇類別標準別表ノ通定メラル

大正九年四月一日

海軍大臣 加藤友三郎

(別表)

特務艦艇類別標準

備考	潜水艦母艇	特務艦		特務艦		類別	等級	計畫排水量									
		掃海艇	敷設艇	運送艇	工作艇												
海軍大臣ハ本表ニ依リ特務艦艇ノ類別並等級ヲ定メ若ハ變更ス		二	等	二百噸未滿	一	等	八百噸以上										
									一	等	五百噸以上	二	等	八百噸未滿四百噸以上			
															三	等	四百噸未滿
									一	等	五百噸以上						

四十三 海軍

1915



大正十五年陸
海軍省告示第
四四七号
依リ告示ノ旨
ニ
依リ本告示ヲ
廢止ス

陸軍第四十號

特務艦類別等級別表ノ通定ム

大正九年四月一日

海軍大臣 加藤友三郎

(別表)

特務艦類別等級表	
類別	等級
工作艦	關東
運送艦	高崎、勞山、青島、膠州、劍埼、松江、宮戸、野島、洲崎、野間、能登呂、知床、襟裳、佐多、志自岐、尻天、石廊、鶴見
備考	特務艦ヲ稱呼スルニハ其ノ類別ノ何タルヲ問ハス「特務艦何」ヲ以テス

四十四

海軍

1916

達第四十一號

海軍人事部職務規程中左ノ通改正ス

大正九年四月一日

海軍大臣 加藤友三郎

本規程中「下士」ヲ「下士官」ニ、「卒」ヲ「兵」ニ、「下士卒」ヲ「下士官兵」ニ改メ

第七條 人事部定期進達諸表中ニ左ノ二表ヲ加フ

第十五表 特務士官准士官定員現員比較表

同

第十六表 豫備役下士官、兵受恩給者調

一月一日

附表第一表乃至第十三表ヲ別表ノ通改メ第十五表及第十六表ヲ加フ

四十五

海軍

1917

大正 年 月 一日下士官兵定員現員比較表 海軍 人事部長 ㊟

官職名	所要員ト現員トノ比較		現役務定員ト現員トノ比較	
	定員	現員 (米)	定員	現員 (米)
一等兵曹				
二等兵曹				
三等兵曹				
一等水兵				
二等水兵				
三等水兵				
小計				
一等機關兵曹				
二等機關兵曹				
三等機關兵曹				
一等機關兵				
二等機關兵				
三等機關兵				
小計				
一等軍樂兵曹				
二等軍樂兵曹				
三等軍樂兵曹				
一等軍樂兵				
二等軍樂兵				
三等軍樂兵				
小計				
一等船匠兵曹				
二等船匠兵曹				
三等船匠兵曹				
一等船匠兵				
二等船匠兵				
三等船匠兵				
小計				
一等看護兵曹				
二等看護兵曹				
三等看護兵曹				
一等看護兵				
二等看護兵				
三等看護兵				
小計				
一等主計兵曹				
二等主計兵曹				
三等主計兵曹				
一等主計兵				
二等主計兵				
三等主計兵				
小計				
合計				

- 一、定員欄ニハ所管艦船部隊其ノ他各部ノ固有全定員ヲ記入スヘシ
 - 二、補缺員ノ端數ハ四捨五入スヘシ
 - 三、現役務定員欄ニハ所管艦船部隊其ノ他各部現役務定員數ニ臨時増置員及増加教員數ノ合計ヲ記入スヘシ
 - 四、上方現員欄ニハ在籍者ノミヲ記入スヘシ
 - 五、本表ハ現月一日ノ異動ヲ終リタルモノヲ記入スヘシ
 - 六、海軍軍令部長ニ進達スヘキ表ニハ備考欄ニ現ニ歸休中ノ合計員數ヲ記入スヘシ
 - 七、艦船部隊其ノ他各部ヨリ兵ノ進級報告遅延ノトキハ配付員數ニ據リ記入シ其旨備考ニ掲載スヘシ
- 但シ配付員數ト實行員數ト差異アルトキハ後日訂正報告ヲナスモノトス

1918

大正 年 月 一日現役下士官調

海軍人事部長

官名	現員	内		計
		補充シ得ル者	補充シ得サル者	
一等兵曹				
二等兵曹				
三等兵曹				
一等機關兵曹				
二等機關兵曹				
三等機關兵曹				
一等軍樂兵曹				
二等軍樂兵曹				
三等軍樂兵曹				
一等船匠兵曹				
二等船匠兵曹				
三等船匠兵曹				
一等看護兵曹				
二等看護兵曹				
三等看護兵曹				
一等主計兵曹				
二等主計兵曹				
三等主計兵曹				
小				
一等下士官				
二等下士官				
三等下士官				
合計				

- 備考
- 一、定員ニ補充シアル者ノ欄ニハ臨時増置員及増加教員ヲモ算入スヘシ
 - 二、補缺員欄ニハ實地研究ノ爲メ定員外トシテ各部ニ配員シアル者及臨時使役(滿期前)ヲモ算入スヘシ
 - 三、滿期前欄ニハ在團員(臨時使役)中滿期六ヶ月以内ノ者ヲ配入スヘシ
 - 四、本表ハ現月一日ノ異動ヲ終リタルモノヲ配入スヘシ

1920

大正 年 月 日 現役兵調

海軍 人事部長

職名	現員	補充シ得ル者		計	休
		補充シ得ル者	計		
一等水兵					
二等水兵					
三等水兵					
四等水兵					
一等機關兵					
二等機關兵					
三等機關兵					
四等機關兵					
一等軍樂兵					
二等軍樂兵					
三等軍樂兵					
四等軍樂兵					
一等船匠兵					
二等船匠兵					
三等船匠兵					
四等船匠兵					
一等看護兵					
二等看護兵					
三等看護兵					
四等看護兵					
一等主計兵					
二等主計兵					
三等主計兵					
四等主計兵					
小計					
一等兵					
二等兵					
三等兵					
四等兵					
合計					

考 備

一、定員ニ補充シアル者ノ關ニハ臨時増置員及増加教員ヲモ算入スヘシ

二、補缺員欄ニハ實地研究ノ爲メ定員外トシテ各部ニ配員シアル者及臨時使役(滿期前)ヲモ算入スヘシ

三、滿期欄ニハ在團員(臨時使役)中滿期六箇月以内ノモノヲ配入スヘシ

四、補充シ得サル者ノ各欄ハ志願兵徵兵ニ區別シ志願兵ハ右方ニ墨書シ徵兵ハ左方ニ朱書スヘシ

五、本表ハ現月一日ノ異動ヲ終リタルモノヲ配入スヘシ

六、艦船部隊其他各部ヨリ進級報告遲延ノトキハ配付員數ニ據リ配入シ其ノ旨備考ニ掲載スヘシ但シ配付員數ト實行員數ト差異アルトキハ後日訂正報告ヲナスモノトス

大正 年 自 月 二日 現役兵異動調 海軍人事部長

職名	前月		計	減		計	現月	
	現在員	一 日 進		歸休	一 日 退		現在員	再 服 役
一等水兵								
二等水兵								
三等水兵								
四等水兵								
一等機關兵								
二等機關兵								
三等機關兵								
四等機關兵								
一等軍樂兵								
二等軍樂兵								
三等軍樂兵								
四等軍樂兵								
一等船匠兵								
二等船匠兵								
三等船匠兵								
四等船匠兵								
一等看護兵								
二等看護兵								
三等看護兵								
四等看護兵								
一等主計兵								
二等主計兵								
三等主計兵								
四等主計兵								
合計								

一、志願兵人員ハ右方ニ墨書シ徵兵人員ハ左方ニ朱書スヘシ
 二、艦船部隊其他各部ヨリ進級報告遅延ノトキハ配付員數ニ據リ記入シ其ノ旨備考ニ掲載スヘシ但シ配付員數ト實行員數ト差異アルトキハ後日訂正報告ヲナスモノトス

1923

第八表 (用紙美濃)

考 備		同 五 線	同 四 總	同 三 線	同 二 線	善 行 章 一 線				潛 水 艇 修 業 徽 章	同 優 等 徽 章	機 關 高 力 運 轉 優 等 章	小 銃 射 擊 優 等 章	同 優 等 徽 章	通 信 優 等 章	同 優 等 徽 章	魚 形 水 雷 發 射 優 等 章	同 優 等 徽 章	艦 砲 射 擊 優 等 章	
																				下 士 官
																				兵
																				計
																				記 事

一、特別善行章所有者 數ハ各相當欄ニ併記シ更ニ同欄内ニ朱書スヘシ

大正 年 月 日 優等章 善行章所有者調 海軍人事部長

1925

第九表 (用紙美濃)

大正 年 月 日 平時戰時所要員現員比較表 海軍人事部長

官 職	平時所要員		戰時所要員		現 員		現役現員ト平時所要員トノ比較時	現役現員ト戰時所要員トノ比較時	現員計ト戰時所要員トノ比較時
	現	備	現	備	現	備			
一等兵									
二等兵									
三等兵									
一等水兵									
二等水兵									
三等水兵									
一等機關兵									
二等機關兵									
三等機關兵									
一等樂兵									
二等樂兵									
三等樂兵									
一等船匠									
二等船匠									
三等船匠									
一等看護兵									
二等看護兵									
三等看護兵									
一等主計兵									
二等主計兵									
三等主計兵									
下士官									
合計									

本表ハ現月一日ノ異動ヲ終リタルモノヲ記入スヘシ

1926

第十表 (用紙美濃)

大正 年 月 日現在豫備役(後備役)下士官兵調 海軍 人事部長

考 備	計		官 職	離現役年別	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	計	
	兵	下士官																			
			一等兵曹																		
			二等兵曹																		
			三等兵曹																		
			一等水兵																		
			二等水兵																		
			三等水兵																		
			四等水兵																		
			一等機關兵曹																		
			二等機關兵曹																		
			三等機關兵曹																		
			一等機關兵																		
			二等機關兵																		
			三等機關兵																		
			四等機關兵																		
			一等軍樂兵曹																		
			二等軍樂兵曹																		
			三等軍樂兵曹																		
			四等軍樂兵曹																		
			一等船匠兵曹																		
			二等船匠兵曹																		
			三等船匠兵曹																		
			一等船匠兵																		
			二等船匠兵																		
			三等船匠兵																		
			四等船匠兵																		
			一等看護兵曹																		
			二等看護兵曹																		
			三等看護兵曹																		
			一等看護兵																		
			二等看護兵																		
			三等看護兵																		
			四等看護兵																		
			一等主計兵曹																		
			二等主計兵曹																		
			三等主計兵曹																		
			四等主計兵曹																		
			一等主計兵																		
			二等主計兵																		
			三等主計兵																		
			四等主計兵																		
			合計																		

一、志願兵ノ人員ハ墨書シ徵兵ノ人員ハ朱書スヘシ
 二、本表ハ豫備役、後備役ヲ各別ニ調製スヘシ

一巻六回二四

1927

第十一表 (用紙美濃)

一巻六回二五

考 備	術理經		術工				術機電		術關機				術信電		術號信		運 用 術	術雷水			術砲			特 修 別 離 現 役 年 別	
	普 通 科	高 等 科	兵 器	織 飯	銅 鑄	機 械	鍛 冶	普 通 科	高 等 科	普通科		高等科		普 通 科	高 等 科	普 通 科		高 等 科	普 通 科	高 等 科	特 修 科	普 通 科	高 等 科		特 修 科
										掌 艦	掌 機	掌 艦	掌 機												
																								一年未滿	
																								二年未滿	
																								三年未滿	
																								四年未滿	
																								五年未滿	
																								五年以上	

一、豫備役ハ右方ニ墨書シ後備役ハ左方ニ朱書スヘシ

大正 年 月 日 豫備役特修兵調 海軍人事部長

1928

備考																				病名及始期	待命年月日	停職年月日	官名	氏名		
																				大正 年 月 一日特務士官准士官待命休職(停職)者調			海軍 人事部長			

休職停職年月日ノ欄停職年月日ハ朱書スヘシ

1929

第十三表 (用紙美濃)

考 備	計		主計 兵曹長	主計 特務少尉	主計 特務中尉	主計 特務大尉	看護 兵曹長	看護 特務少尉	看護 特務中尉	看護 特務大尉	船匠 兵曹長	船匠 特務少尉	船匠 特務中尉	船匠 特務大尉	軍樂 兵曹長	軍樂 特務少尉	軍樂 特務中尉	軍樂 特務大尉	機關 兵曹長	機關 特務少尉	機關 特務中尉	機關 特務大尉	兵曹 長	特務 少尉	特務 中尉	特務 大尉	官 名	豫備 役	後備 役	退 役	計			
	計	准士官 特務士官																																

大正 年 月 一日
 豫備役 後備役 特務士官 准士官 調
 海軍 人事部長

1930

第十五表 (用紙美濃)

大正 年 月 日 特務士官准士官定員現員比較表 海軍 人事部長

官 名	定 員		現 員		比 較	
	定	員	現	員	過 不 足 (朱)	現 役 務 定 員 現 員 (補 員 除 外) 過 不 足 (朱)
特務大尉						
特務中尉						
特務少尉						
兵曹長						
機關特務大尉						
機關特務中尉						
機關特務少尉						
機關兵曹長						
軍樂特務大尉						
軍樂特務中尉						
軍樂特務少尉						
軍樂兵曹長						
船匠特務大尉						
船匠特務中尉						
船匠特務少尉						
船匠兵曹長						
看護特務大尉						
看護特務中尉						
看護特務少尉						
看護兵曹長						
主計特務大尉						
主計特務中尉						
主計特務少尉						
主計兵曹長						
計 准 士 官						
特 務 士 官						
計						

一、定員欄ニハ所管艦團其ノ他各部ノ固有全定員ヲ記入スヘシ
 二、現役務定員欄ニハ所管艦船部隊其ノ他各部ノ現役務定員ニ臨時増設員ヲ加ヘタル員數ヲ記入スヘシ
 三、本表ハ現月一日ノ異動ヲ終リタルモノヲ記入スヘシ

1931

大正 年一月一日豫備役後備役下士官、兵受恩給者調

海軍人事部長

考 備	計	兵	下 士 官	種 別		
				總 人 員	受 恩 給 者	
				豫 備	役	
				總 人 員	受 恩 給 者	
				百 分 比	百 分 比	
					後 備	役
					總 人 員	受 恩 給 者
					百 分 比	百 分 比
					計	
					總 人 員	受 恩 給 者
					百 分 比	百 分 比

志願兵ハ右方ニ墨書シ徵兵ハ左方ニ朱書スヘシ

1932

達第四十二號

海軍武官増俸規則左ノ通改正ス

海

大正七年達第百七号

大正九年四月一日

海軍大臣

加藤友三郎

海軍武官増俸規則

第一條 海軍武官ノ増俸ハ級ヲ逐々之ヲ行フ

第二條 増俸ハ任官ノ日ヨリ起算シ左ニ掲ケル増俸停年以上ノ者ニシテ且補劔ナルモノニ非ザルハ之ヲ行フコトナシ

- 一 各科大尉 二級俸ニハ一年、一級俸ニハ二年
- 二 各科特務大尉 二年
- 三 各科中尉 一年
- 四 各科特務中尉 二年
- 五 各科特務少尉 一年

四十六

海軍

六 准士官 三級俸ニハ一年、二級俸ニハ二年、一級俸ニハ三年

七 一等下士官 三級俸ニハ八月、二級俸ニハ一年四月、一級俸ニハ二年

八 二等下士官 八月

九 三等下士官 八月

第三條 増俸停年ハ任官後ノ經過日數ヨリ左ノ各號ノ日數ヲ減シ之ヲ算出ス但シ同一期

間ニ於テ二號以上重複減算スルコトナシ

一 待命中ノ日數

二 第四條ニ記載スル事故發生中ノ日數但シ逃亡又ハ收禁中ノ日數ハ免罪又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合、捕虜ト爲リタル日數ハ正當ノ理由アリト審定セラレタル場合ニハ之ヲ減算セム

三 公務ニ原因セサル傷疾疾病ニ依リ入院、入室又ハ轉地療養中ノ日數

四 自己ノ願ニ依ル休暇日數

第四條 休職、歸休、停職、逃亡、留置、收禁、處罰若ハ處刑中又ハ捕虜ト爲リタル期

1933

間ハ増俸スルコトナシ

第五條 前二條ノ規定ハ海軍給與令第一表軍人俸給表備考第三ノ條給ヲ給スル場合ニ付之ヲ適用ス

第六條 毎級俸ノ人員ハ左ノ制限ヲ超ニサルモノトス

- 一 各科大尉ニ一級俸及二級俸ヲ給スルハ各官別ニ其ノ人員ノ三分ノ一
- 二 各科特務大尉、各科中尉、各科特務中尉及各科特務少尉ニ一級俸ヲ給スルハ各官別ニ其ノ人員ノ二分ノ一

- 三 准士官及一等下士官ニ一級俸、二級俸又ハ三級俸ヲ給スルハ各官別ニ其ノ人員ノ四分ノ一

四 二等下士官及三等下士官ニ一級俸ヲ給スルハ各官別ニ其ノ人員ノ二分ノ一
 毎級俸ノ員數算出上端數ヲ生シタルトキハ最下級俸ヨリ一名ヲツツ加へ順次上級俸ニ
 置クモノトス

増俸候補者少數ナル爲或等級ニ於テ第一項ノ員數ニ達セザルトキハ其ノ不足數ニ相當

スル員數ヲ其ノ下級ニ於テ過員ト爲スコトヲ得

第七條 士官ノ増俸ハ海軍大臣之ヲ行フ

第八條 特務士官、准士官及下士官ノ増俸ハ在籍ノ鎮守府司令長官之ヲ行フ但シ艦隊司令長官又ハ獨立部隊司令官ノ部下ニ屬スル者ノ増俸ニシテ第十五條ノ規定ニ依ルモノハ各其ノ司令長官又ハ司令官之ヲ行フ

第九條 特務士官、准士官ノ増俸期日ハ十一月一日、下士官ノ増俸期日ハ六月二十日及十二月二十日トス

第十條 拔擢名簿調製官 海軍武官任用進級取扱規則ニ依ル以下ニ依リ 六月一日又ハ十二月一日ノ所屬(一日ニ所屬ニ依ル)ニ付別紙様式第二ニ依リ下士官ノ増俸拔擢名簿ヲ調製シ其ノ月ノ五日迄ニ

直屬上官ヲ經テ在籍鎮守府司令長官ニ具申スハシ

遠隔若ハ通信不便ノ地ニ在ル艦船部隊又ハ之等ノ地ニ向ケ航海スル艦船ニ在リテハ豫メ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第十一條 拔擢名簿調製官ハ第二條ニ規定スル増俸停年以上ノ下士官ニシテ増俸スルニ

適當ナラズト認ムル者増俸授擢名簿調製期日ニ接近シ其ノ所屬ヲ變更シタルトキハ理
由ヲ附シ新調製官ニ通報スヘシ

第十二條 授擢名簿調製官ハ増俸授擢名簿ニ登載シタル下士官ニシテ増俸期日前増俸ニ
ヘカラサル事由ヲ生シタルトキハ速ニ在籍鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第十三條 士官ニシテ二年以上同一ノ級俸ニ在リ職務勉勵功勞顯著ナル者ハ第六條ノ制
限ニ拘ラス特ニ之ヲ増俸スルコトアルヘシ

授擢名簿調製官ハ部下ノ士官中前項ノ規定ニ該當スト認ムル者アルトキハ九月一日ノ
所屬ニ就キ別紙様式第一ニ依リ増俸授擢名簿ヲ調製シ理由ヲ附シ十月一日迄ニ海軍大
臣ニ具申スヘシ

第十四條 鎮守府司令長官ハ在籍特務士官、准士官及下士官ニシテ増俸資格ヲ有シ職務
勉勵功勞顯著ナル者アルトキハ毎級相當官階ヲ合シタル員數第六條ノ制限ヲ超エザル
範圍内ニ於テ特ニ之ヲ増俸スルコトヲ得

第十五條 授擢名簿調製官ハ其ノ部下ニシテ増俸資格ヲ有スル者傷痍疾病ニ因リ危篤ニ

陥リタルトキハ時機ヲ失セス理由ヲ附シ其ノ旨速ニ士官ニ在リテハ海軍大臣ニ、特務
士官、准士官及下士官ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官（艦隊又ハ獨立部隊ニ屬スル者ニ在
リテハ各其ノ司令長官又ハ司令官ニ具
申スヘシ

第十六條 授擢名簿調製官ハ其ノ部下ニシテ現役定限年齢ニ滿テ現役ヲ退ク者ノ中増俸
資格ヲ有スル者アルトキハ別紙様式第一又ハ第二ニ依リ増俸授擢名簿ヲ調製シ理由ヲ
附シ其ノ都度速ニ海軍大臣又ハ在籍鎮守府司令長官ニ具申スヘシ

第十七條 前二條ノ規定ニ該當スル者ハ第六條及第十四條ノ制限ニ拘ラス其ノ際特ニ増
俸スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鎮守府司令長官、特務士官、准士官ノ増俸ヲ行ヒタル
トキハ海軍大臣ニ、艦隊司令長官又ハ獨立部隊司令官、特務士官、准士官ノ増俸ヲ行
ヒタルトキハ在籍鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告シ下士官ノ増俸ヲ行ヒタルト
キハ在籍鎮守府司令長官ニ通報スヘシ

(様式第一)

年 月 日

發給者氏名印

海軍大臣兼海軍省長官 爵氏 名殿

士官(特務士官)准士官増俸改遷名簿

改遷順	現官ニ任シタル	増俸キセムハ	現級俸給與	第三條ノ除算等	増俸停年	官氏名
	年 月 日	キ	年 月 日	項及其ノ日数		
一						同 何 某
二						大尉 何 某

調製官所見

四十九

海 軍

調製官ノ直
屬上官所見

備考 一 所見ハ要スルトキノミ記載スヘシ

二 改遷順ハ各官各級俸別ニ之ヲ記入スヘシ

三 被改遷者ハ先任順ニ列記スヘシ

1936

(表式第二)

年 月 日

職 銜 氏 名 印

鎮守府司令長官 露 氏 名 印

下士官増俸拔擢名簿

一等兵曹一級俸ニ増俸スヘキ者

拔擢順	現官ニ任ン タル年月日	現級俸給 年月日	第三級ノ 現及共ノ日数	増俸 停年	差行 差行状	入籍 番號	氏 名
一							何 某
二							何 某

調製官所見

五十 海 軍

調製官ノ直
屬上官所見

備考 一 所見ハ要スルトキノモ記載スヘシ

二 拔擢名簿ハ各官各級俸別ニ調製スヘシ

三 増俸停年ヲ有スル者ニシテ拔擢セサルモノアルトキハ別紙ニ認め之ヲ増俸

拔擢名簿ニ添附スヘシ

達第四十三號

海軍特務士官准士官配屬命課規則左ノ通改正ス

大正六年達第百五号

大正九年四月一日

海軍大臣 加藤 友三 郎

海軍特務士官准士官配屬命課規則

第一條 特務士官准士官ノ兵籍ハ下士官在官中ノ所屬ニ從ヒ横須賀、吳、佐世保及舞鶴ノ四鎮守府ニ配屬シ各其ノ府在籍トス但シ軍樂科特務士官准士官ニ在リテハ横須賀鎮守府在籍トス

特務士官准士官ノ配屬ヲ轉換スル必要アルトキハ海軍大臣之ヲ行フ但シ鎮守府司令長官相互ノ協議ニ依リ其ノ本籍ヲ轉換セムトスルトキハ事由ヲ具シ海軍大臣ニ上申スヘシ
前項ノ規定ニ依リ本籍ヲ轉換セラントル者ハ辭令ヲ用キス從前ノ職課ヲ免セララルモノトス

五十一 海軍

第二條 特務士官准士官ノ命課ハ在籍鎮守府司令長官之ヲ行フ但シ海軍大臣ハ必要ト認ムルトキハ直接命課ヲ行フコトアルヘシ

命課ノ辭令ハ特務士官ニ在リテハ官報ニ、准士官ニ在リテハ在籍鎮守府ノ公報ニ掲載スルモノトス

第三條 特務士官准士官ニシテ掌砲長、掌水雷長、掌航長、掌信號長、掌通信長若ハ掌機長及准士官ニシテ教員ノ配置ニ充ツル者ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官特ニ其ノ配置ヲ指定シ其ノ辭令ヲ鎮守府公報ニ掲載スヘシ

第四條 特務士官准士官ノ定員臨時増置員ヲ含ムハ艦船ニ在リテハ其ノ本籍鎮守府在籍者ヲ以テ補充シ部隊其ノ他各部ニ在リテハ第五條第六條ノ規定ニ依ルモノノ外其ノ所在地ノ海軍區ヲ管スル鎮守府在籍者ヲ以テ補充スルモノトス但シ軍樂科特務士官准士官ノ補充ハ横須賀鎮守府司令長官之ヲ行フ

第五條 艦隊司令部附ノ特務士官准士官軍樂科ヲ除クハ横須賀、吳、佐世保、舞鶴鎮守府ノ順序ニ依リ艦隊番號順ニ各鎮守府ヨリ之ヲ補充スヘシ

1938

第六條 各學校、運用術練習艦及高等科信號術練習生ノ教練ニ充ツヘキ特務士官准士官ハ略等分ニ各鎮守府ヨリ補充スヘシ

前項特務士官准士官ノ鎮守府別補充人員數ハ學校等ノ所在地海軍區ヲ管スル運用術練習艦ニ在リテハ在鎮守府司令長官之ヲ定メ他鎮守府司令長官及關係各部ニ通知スルモノトス

第七條 士官特務士官ノ共通定員ニ於テ特務士官ヲ以テ配員スヘキ標準ハ必要ニ際シ其ノ都度海軍大臣之ヲ告達ス

第八條 艦裝員タル特務士官及艦裝員附タル准士官ハ艦裝員長ノ申請ニ因リ其ノ艦船本籍假定籍ヲ合ム鎮守府ヨリ補充スヘシ

第九條 臨時派遣員及戰時又ハ時變ニ際シテ必要アル場合ノ補充ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム

第十條 艦船部隊其ノ他各部ニ於テ特種ノ職務ニ充ツヘキ者又ハ特長ノ技能ヲ有スル者ヲ要スル場合ニ於テ適當ナル在籍者ヲ得能ハサルトキハ鎮守府司令長官ハ他ノ鎮守府司令長官ニ協議シ一時他ノ鎮守府在籍者ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第十一條 遠隔ノ地ニ在ル艦船ニ於テ急遽ニ定員ノ補充ヲ要シ本籍鎮守府ヨリ補充スルノ途ナキトキハ鎮守府司令長官ハ他ノ鎮守府司令長官ニ協議シ一時他ノ鎮守府在籍者ヲ以テ補充スルコトヲ得

第十二條 前二條ノ場合ニ於テ命課ハ在籍鎮守府司令長官之ヲ行フ

第十三條 鎮守府司令長官ハ准士官ノ定員ヲ補充スルニ當リ必要アルトキハ一等下士官ニ准士官職務心得ヲ命シ一時其ノ定員ヲ補充スルコトヲ得

前項ノ職務心得ヲ免セラレタル者ハ別ニ命ナクシテ現所屬ノ下士官定員ニ補充セラレタルモノトス但シ下士官ノ定員ナキ場合ニ於テハ之ヲ海兵團ニ入團セシムヘシ

第十四條 鎮守府司令長官ハ在籍特務士官准士官ニ待命、休職、停職ヲ命シタルトキハ事由ヲ具シ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ傷痍疾病ニ因ル者ハ事由ヲ具スルニ及ハス

第十五條 特務士官准士官ハ其勤務歴又ハ職名廢止ノ場合ニハ辭令ヲ用キス職課ヲ免セラレタルモノトス本職ヲ免セラレタル場合ニ於ケル兼職亦同シ職名改稱ノ場合ニ於テハ辭令ヲ用キス新職ニ補セラレタルモノトス

達第四十四號

明治四十三年達第七號海軍五等卒教育綱領ヲ海軍四等兵教育綱領ニ同年達第五號海軍五等卒教育規則ヲ海軍四等兵教育規則ニ改メ同綱領及規則中五等卒ノ各職ニ對スル規程ハ各其ノ種別ニ從ヒ四等兵ノ各職ニ之ヲ適用ス

大正九年四月一日

海軍大臣 加藤友三郎

達第四十五號

明治四十三年達第六十一號普通科信統術練習規則第三條中「四等水兵」ヲ「三等水兵」ニ、大正七年達第九十二號海軍軍樂練習規則第二條中「四等軍樂生」ヲ「三等軍樂兵」ニ「五等軍樂生」ヲ「四等軍樂兵」ニ同第三條中「軍樂手」ヲ「軍樂兵曹」ニ「軍樂生」ヲ「軍樂兵」ニ(別表)「海軍武官文官考課表規則」ヲ「海軍考課表規則」ニ、明治四十三年達第六號海軍木工練習規則第一條中「木工」ヲ「船匠兵」ニ同第二條中「四等木工」ヲ「三等船匠兵」ニ「五等木工」

五十三

海軍

ヲ「四等船匠兵」ニ何レモ改ム

大正九年四月一日

海軍大臣 加藤友三郎

1940



大正九年四月一日
海軍大臣 加藤 友三郎

逕第四十六號

勤務日數計算規則左ノ通定ム

大正九年四月一日

海軍大臣 加藤 友三郎

勤務日數計算規則

- 第一條 海軍武官進級令及海軍武官増俸規則ノ規定ニ依ル各種勤務日數ノ計算ニ關シテハ本則ノ定ムルニ依リ
- 第二條 勤務日數ハ武官ニ在リテハ任官ノ官記若ハ辭令ノ日ヨリ、兵ニ在リテハ其ノ等級ヲ命セラレタル日ヨリ起算ス
- 第三條 左ニ記載スル期間ハ海上勤務トス
 - 一 定員又ハ乗員標準ヲ定メタル艦艇ノ職員タル間ノ日數
 - 二 定員令ノ規定ニ依リ練習又ハ研究ノ爲艦艇ニ乗組服務中ノ日數
 - 三 官ニ於テ使役スル部外艦船ニ乗組服務中ノ日數

五十四 海軍

- 四 特ニ命ヲ承ケ外國艦船ニ乗組服務中ノ日數
- 五 運用術修習ノ爲練習艦ニ乗組服務中ノ日數
- 第四條 左ニ記載スル期間ハ航空勤務トス
 - 一 職員トシテ又ハ特ニ海軍大臣ノ命ヲ承ケ航空隊ニ在リテ航空機ニ乗スル勤務ニ從事中ノ日數
 - 二 特ニ命ヲ承ケ外國ニ於テ航空機ニ乗スル勤務者ハ其ノ修學ニ從事中ノ日數
 - 三 航空術學生、航空術機關學生又ハ飛行術練習生トシテ修學中ノ日數
 - 第五條 海上勤務又ハ航空勤務日數ノ計算ハ其ノ事項發生又ハ辭令ノ日ヨリ起算シ其ノ事項ノ解除又ハ其ノ辭令ノ前日ヲ以テ終ルモノトス
 - 第六條 海軍武官進級令第八條ノ規定ニ依リ左ニ記載スル期間ハ海上勤務又ハ航空勤務ノ日數ニ算スルヲ得ス
 - 一 公務ニ因ラサル傷疾若ハ疾病ノ爲入院。入室若ハ轉地療養中ノ日數
 - 二 自己ノ願ニ依リ休暇日數

第七條 海軍武官進級令、海軍武官増俸規則及前條ノ規定ニ依リ各種勤務日數ニ算入セ
ラル日數ノ計算ハ其ノ事項發生又ハ辭令ノ日ヨリ起算シ其ノ事項ノ解除又ハ其ノ辭令
ノ前日ヲ以テ終ルモノトス

第八條 日數ノ計算ハ曆ニ從ヒ年、月、日ヲ以テ算ス

月又ハ年ノ始メヨリ日數ヲ起算セラルトキハ最後ノ月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當
スル日ノ前日ヲ以テ月又ハ年ヲ滿了ス但シ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日
ヲ以テ之ヲ滿了スルモノトス

第九條 端日數ハ三十日ヲ以テ一月ニ算シ端日數ハ十二月ヲ以テ一年ニ算ス

第十條 海上勤務又ハ航空勤務ニ對スル加算日數ハ各其ノ勤務日數ノ累計ニ於テ計算シ
日ノ端數ハ四捨五入ス

附 則

本則ハ本則施行以後勤務日數ヲ計算スルニ當リ其ノ起算期ニ廻リ之ヲ適用ス
停年計算規則及明治四十一年達第五十三號ハ之ヲ廢止ス (附) 明治四十五年達第八七七号

五十五

海 軍

附 則 明治四十一年達第五十三號ハ學校病院及海兵團ノ職員タル期間中停年加算ノ件ナリ

1942

大正十四年陸
第五十五号
本号終止



達第四十七號

大正九年勅令第八十五號ニ依リ海軍省ニ臨時増置ノ職員ヲ人事局ニ配屬セシム

大正九年四月一日

海軍大臣 加藤 友三郎

五十六

海軍

1943

達第四十八號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

大正九年四月一日

海軍大臣 加藤 友三郎

第三條第三項中「又ハ總督附武官ニ補セラレタルトキ」ヲ削ル

第二章第四節「下士卒特別加俸」ヲ「特別加俸」ニ改ム

第六十四條第一號中「候補生ヨリ士官及」ヲ削リ第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 前各號ノ一ニ該ル場合ノ外經理局

第八委品目ノ項中「軍樂員」ヲ「軍樂兵」ニ、「紺足袋」ノ項中「木工」ヲ「船匠兵」ニ改ム

第九表專業服上衣袴ノ項中「看護手、筆記」ヲ「看護兵曹、掌經理兵タル主計兵曹」ニ改ム

第十一表軍衣袴ノ項中「一等厨宰」ヲ「掌經理兵ニ非サル」等主計兵曹「ニ」、「一等船匠手」

ヲ「一等船匠兵曹」ニ、「看護」ヲ「看護兵」ニ、「夏襦袢、靴下、專業服上衣袴」ノ各項及備考

第八項中「五等卒」ヲ「四等兵」ニ、「半靴」ノ項中「五等水兵」ヲ「四等水兵」ニ「專業服上衣袴」

五十七 海軍

項中「二三等船匠手」ヲ「二三等船匠兵曹」ニ、「二三等厨宰」ヲ「掌經理兵ニ非サル二三等

主計兵曹」ニ、「主厨」ヲ「主計兵」ニ、「木工」ヲ「船匠兵」ニ、「看護」ヲ「看護兵」ニ改ム

第十二表備考第一項中「卒軍帽前章(軍樂生ヲ除ク)」ヲ「兵(軍樂兵ヲ除ク)(軍帽前章)ニ改ム

第十四表脚袴ノ項中「五等卒」ヲ「四等兵」ニ、「海軍卒」ヲ「兵」ニ改ム

第十七表下士(軍樂員ヲ除ク)ノ部軍衣ノ項及軍樂員ノ部禮衣ノ項中「鈕釦縫着ノ位置ハ

縁端ヨリ八分トシ鈕釦止栓ヲ覆フ裏布ヲ附ス」ヲ削リ防寒服ノ部毛織襟巻及毛織手袋ノ

各項中品質製式ノ欄ニ左ノ如ク加フ

但シ准士官以上及文官ニ用フルモノハ白色トス

第十七表附圖、中著襟ノ部「一尺」及「五寸」ヲ各「七寸五分」ニ、「下士軍帽前章」ヲ「下士官

軍帽前章」ニ、「軍樂生軍帽前章」ヲ「軍樂兵軍帽前章」ニ改ム

第十九表中「下士卒」ヲ「軍樂員」ヲ「下士官」ヲ「下士官」ニ改ム

第九表、第十一表、第十二表、第十三表、第十七表及第十九表中「下士(軍樂員ヲ除ク)」

1944

又ハ「下士(軍樂兵ヲ除ク)」「下士官(軍樂兵ヲ除ク)」ニ改ム

第八表、第九表、第十一表、第十二表、第十三表、第十四表、第十七表、第十七表附圖、第十八表及第十九表中「卒(軍樂兵ヲ除ク)」又ハ「卒(軍樂生ヲ除ク)」若ハ「卒(軍樂兵ヲ除ク)」ヲ「兵(軍樂兵)」ニ改ム

第九表、第十一表、第十二表、第十三表、第十七表及第十九表中「軍樂兵」ヲ「軍樂兵曹」ニ改ム
 第十七表、第十七表附圖、第十八表及第十九表中「下士及軍樂兵」ヲ「下士官及軍樂兵」ニ改ム

第十九表ノ二甲ノ項中「警隊職員」ヲ「警隊職員」ニ、「大中少佐大尉及相當官」ヲ「大尉及相當官」ニ、「高等文官三等乃至六等」ヲ「高等文官三等乃至六等」ニ、「中少尉及相當官、候補生、高等文官七等以下」ヲ「中少尉及相當官、候補生、高等文官七等以下」ニ、「特務士官、准士官、列任文官」ヲ「特務士官、准士官、列任文官」ニ、「候補生及文官」ヲ「候補生及文官」ニ、「候補生及文官及同待遇者」ニ、「備考第四項第三號中「大佐及相當官」」ヲ「大佐及相當官」ニ改メ同第六號ヲ左ノ如ク改ム

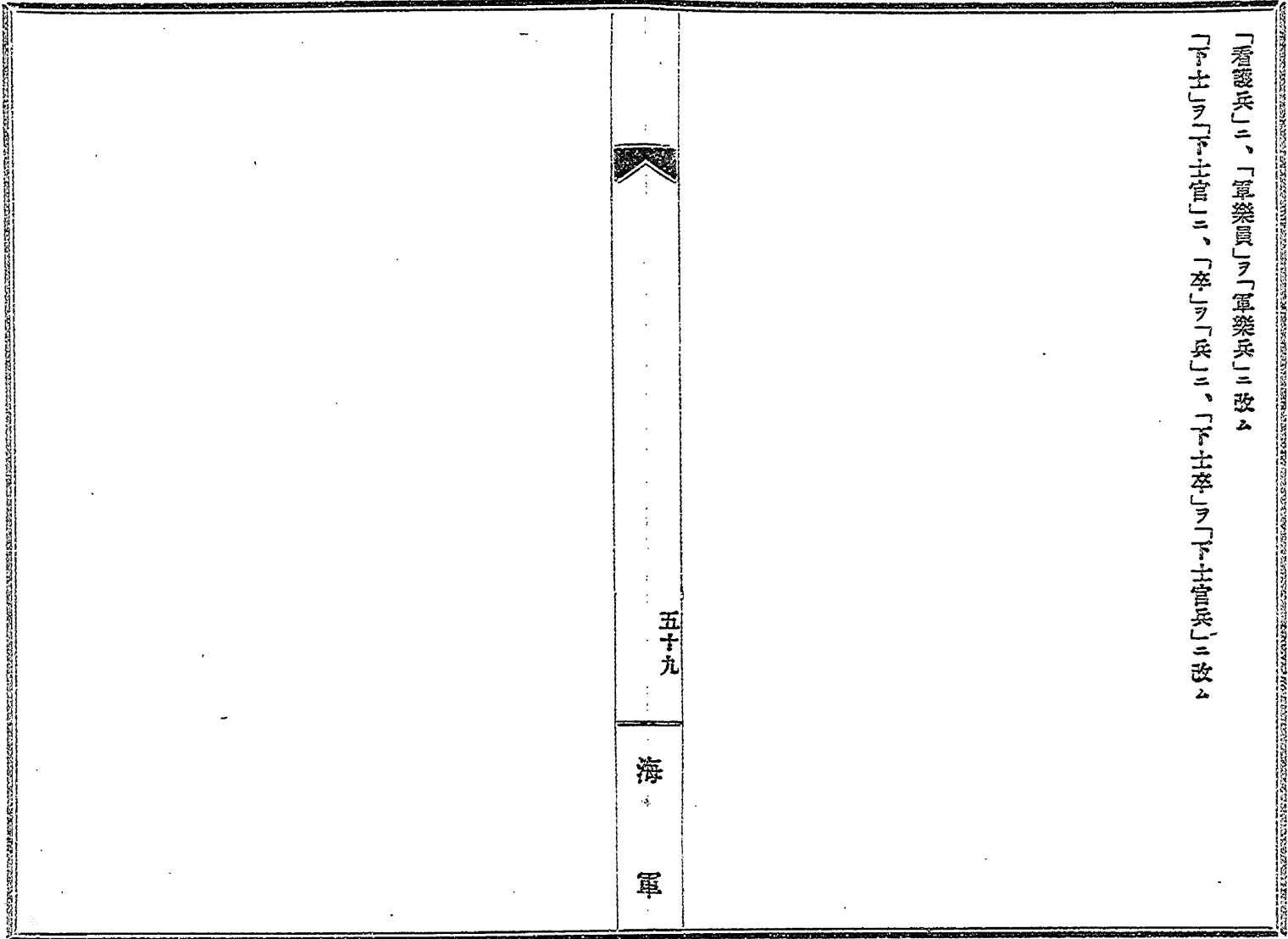
六 官用船舶乗組ノ士官、特務士官、候補生並高等文官及委任待遇者ニハ士官室、准士官室

官就判任文官及判任待遇者ニハ准士官室ノ額
 第十九表ノ三甲ノ項ヲ左ノ如ク改ム

甲		乙		丙	
三十三錢	將官、高等文官二 等以上				
二十二錢		艦長室	艦長		
二十錢	各科大中少佐、高等文官三等乃至五等	士官室	各科大中少佐、各科大尉、各科特務中少尉、各科特務大尉、高等文官三等乃至六等		
十七錢	各科大尉、各科特務大尉、各科中少尉、各科特務中少尉、候補生、高等文官六等以下、委任待遇者	士官次室	各科中少尉、各科特務中少尉、候補生、高等文官七等以下、委任待遇者		
十二錢	准士官、判任文官	准士官室	准士官、判任文官		
十錢	判任待遇者、雇員 備人				

第二號書式(乙)、第二號ノ三書式中「木工」ヲ「船匠兵」ニ、「主厨」ヲ「主計兵」ニ、「看護」ヲ

給與令第七十九條ノ二第一號ニ依リ朝鮮、臺灣及ハ關東州ニ在ル官衙部隊所屬艦船乗組ノ准士官以上候補生並文官及同待遇者ニ給スル食料
 給與令第七十九條ノ二第二號及第三號ニ依リ朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ在ル准士官以上候補生並文官、同待遇者及雇員備人(艦船食料ヲ除ク)ニ給スル食料



「香澤系」「三ノ」「軍樂員」「ヨ」「軍樂兵」「ニ」「改」
「オ」「ハ」「シ」「ヨ」「オ」「ハ」「シ」「ヨ」「オ」「ハ」「シ」「ヨ」「オ」「ハ」「シ」「ヨ」「オ」「ハ」「シ」「ヨ」「オ」「ハ」「シ」「ヨ」



五十九

海
軍

1946

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

逕第四十八號ハ後ヨリ送付ス

逕第四十九號

海軍無線電報取扱規約附表第一海軍艦(船)名及海軍無線電信所名略符號ノ欄ニ等驅逐艦ノ部中檢ノ次ニ左ノ通追加ス

大正九年四月五日

海軍大臣 加藤友三郎

J V E

栗

六十

海軍

1947

達第五十號

海軍下士卒定員補充交代規則中左ノ逕改正ス

大正九年四月九日

海軍大臣 加藤友三郎

本則中「下士」ヲ「下士官」ニ、「下士卒」ヲ「下士官兵」ニ、「艦艇其ノ他各部」ヲ「艦船部隊其ノ他各部」ニ改ム

第二條中「軍樂手軍樂生」ヲ「軍樂兵曹軍樂兵」ニ改ム

第三條 艦隊司令部附又ハ戰隊司令部附タル下士官兵軍樂科ヲ除クハ横須賀、吳、佐世保、舞鶴鎮守府ノ順序ニ依リ艦隊又ハ戰隊ノ種別毎ニ其ノ番號順ニ各鎮守府ヨリ之ヲ補充ス
ハシ但シ第一遣外艦隊司令部附ハ佐世保鎮守府ヨリ第二遣外艦隊司令部附ハ吳鎮守府ヨリ練習艦隊司令部附ハ舞鶴鎮守府ヨリ之ヲ補充スヘシ

第四條中「略等分」ヲ「略在籍練習生ノ員數ニ比例スル如ク」ニ改ム

第五條第二項中「補充ヲ行ヒタル」ヲ「補充ヲ受ケタル」ニ改ム

第八條第二項ヲ削ル

第十條第一號中「五等水兵五等機關兵」ヲ「四等兵軍樂兵ヲ除ク」ニ改ム

同 條第三號中「其ノ補充交代」ノ次ニ「人員」ヲ加フ

同 條第四號中「第一號及第二號」ヲ「前各號」ニ改ム

同 條第七號ヲ削ル

第十一條 第一項ヲ左ノ如ク改ム

普通科信號術練習生、軍樂兵補習生及船匠兵補習生ノ卒業期ニ於テ鎮守府司令長官ハ臨時ニ其ノ兵種ニ屬スル者ノ補充交代ヲ實施ス

第十二條中「艦隊司令長官麾下ニ屬スル艦船」ニ關シ事態重キモノニ在リテハ」ヲ「艦隊所屬ノ艦船ニ關シ重要ナル補充交代ハ」ニ改ム

第十五條中「第十條及第十一條ニ依ル實地研究員中ノ三四等卒」ヲ「第十條及第十一條ニ依リ實地研究ノ爲定員外ニ配置セラントル三等兵」ニ改ム

第十六條中「別ニ規定アルモノ」ヲ「別ニ規定アルカ又ハ定期補充交代期ニ切迫セル場

合「ニ改メ但密ヲ削ル
第十七條 臨時派遣委員及戰時又ハ事變ニ際シ特ニ必要アル場合ノ補充ニ關シテハ海軍大
臣之ヲ定ム

六十二

海軍

1949

達第五十一號

海軍港務部處務規程中左ノ通改正ス

大正九年四月十二日

海軍大臣 加藤友三郎

第一條十六號ヲ左ノ如ク改ム

十六 軍港防禦ノ爲行フ防材及防禦網作業ヲ補助スルニト

第五條中「將校、機關將校及將校相當官」ヲ「士官」ニ改ム

達第五十二號

要港部處務規程中左ノ通改正ス

大正九年四月十二日

海軍大臣 加藤友三郎

第五條中「將校、機關將校、將校相當官」ヲ「士官」ニ改ム

六十三

海軍

第十七條中「機關將校」ヲ「機關科將校」ニ改ム

第十八條中「軍醫官」ヲ「軍醫科士官」ニ改ム

第十九條中「主計官」ヲ「主計科士官」ニ改ム

第二十條十五號ヲ左ノ如ク改ム

十五 要港防禦ノ爲行フ防材及防禦網作業ヲ補助スルニト

達第五十三號

港用品經理規程中左ノ通改正ス

大正九年四月十二日

海軍大臣 加藤友三郎

第三條及第四條中「港務部長若ハ要港部知港事」ヲ「港務部長、要港部知港事又ハ防備隊司令」ニ改ム

第五條 港務部、要港部及防備隊ニ要ナル港用品ハ所管鎮守府兵備品會計官吏之ヲ供給

1950

ス
 常設ノ射場ニ要スル港用品ハ射場保管ノ港務部、要港部又ハ防備隊ニ於テ之ヲ取扱フ
 モノトス
 第七條 港務部長、要港部知港事及防備隊司令ハ定額及年額ニ基キ配付豫算ノ範圍内ニ
 テ所要ノ港用品ヲ處辨スヘシ
 第七條ノ二中「港務部長及要港部知港事」ヲ「港務部長、要港部知港事及防備隊司令」
 ニ改ム

達第五十四號

海軍兵備品會計規程別表中左ノ通改正ス

大正九年四月十二日

海軍大臣 加藤友三郎

港用品ノ項兵備品取扱主任欄中「港務部所屬兵曹長、同相當官、准士官、知港事所屬准

六十四
 海軍

士官」ヲ「港務部部員、要港部附將校、防備隊分隊長」ニ改メ備考第八項ヲ削除ス

達第五十五號

驅逐艦島風ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

大正九年四月十二日

海軍大臣 加藤友三郎

G Q H Y 島風

正誤

達第四十一號本文中第十六表豫備役ノ下ニ後備役ヲ脱ス

大正九年四月十二日

海軍省副官

1951

達第五十六號

大正二年達第七十號中左ノ通改正ス

大正九年四月十三日

海軍大臣

加藤友三郎

第九號書式

第 號

修業證書

商船學校航海科(機關科)學生
海軍 豫備 生徒 氏名

海軍砲術學校商船學生教程修業ヲ
證ス

年 月 日

海軍砲術學校長位勳功爵氏名

印職

六十五

海 軍

1952

達第五十七號

艦内衛兵規則中左ノ通改正ス

大正九年四月十五日

海軍大臣 加藤友三郎

第二條中「艦長」ヲ「艦總ノ指揮官」ニ改ム

第三條 衛兵ニハ司令及要スレハ副司令ヲ登キ分隊長、分隊士若ハ適當ナル士官特務士官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

衛兵副司令ハ衛兵司令ノ命ヲ承ケ服務シ其ノ職務ヲ分擔補助スハシ

第六條中「衛兵司令」ヲ「衛兵司令及衛兵副司令」ニ、「下士以下」ヲ「下士官以下」ニ改ム

第九條中「水雷隊營」ヲ「防備隊、航空隊」ニ改ム

第十條中「所管長官」ヲ「所管長官及所屬長官」ニ改ム



六十六

海軍



1953

達第五十八號

官吏以下臨時手當支給規則左ノ通定ス

大正九年四月十五日

海軍大臣 加藤 友三郎

官吏以下臨時手當支給規則

第一條 准士官以上^{大尉}及候補生ニハ別表第一ニ依リ臨時手當ヲ給ス
待命、休憩、停職等ニ因リ俸給全額ヲ受ケサル者ニハ其ノ受クル俸給ノ割合ニ應ジ臨
時手當ヲ給ス

第二條 下士官兵ニハ別表第二ニ依リ俸給甲額ヲ受クル者ニハ甲、俸給乙額ヲ受クル者
ニハ乙ノ臨時手當ヲ給ス

傷疾疾病又ハ處刑處罰等ニ因リ俸給全額ヲ受ケサル者ニハ其ノ受クル俸給ノ割合ニ應
ジ臨時手當ヲ給ス

第三條 文官同待遇官吏ニハ俸給支給額ヲ基本トシ左ノ區別ニ從ヒ臨時手當ヲ給ス但シ

俸給年額七千五百圓以上ノ者ニハ支給セス

一、俸給年額六千五百圓ヲ超ユル者

年額五百圓但シ本俸ト合シテ年額七千五百圓ヲ超ユルヲ得ス

二、俸給年額五千五百圓ヲ超ユ六千五百圓ヲ超ユサル者

本俸ト合シテ年額七千圓ニ達スル金額

三、俸給年額三千圓ヲ超ユ五千五百圓ヲ超ユサル者

年額千五百圓

四、俸給年額千二百圓ヲ超ユ三千圓ヲ超ユサル者

年額二百圓及俸給額ノ三十分ノ十三ヲ合シタル金額

五、俸給年額三百圓ヲ超ユ千二百圓ヲ超ユサル者

年額百二十圓及俸給額ノ二分ノ一ヲ合シタル金額但シ臨時手當ノ額ハ年額三百

圓ヲ下ラス

六、俸給年額三百圓以下ノ者

十割

休職者ノ臨時手當ハ其ノ在職俸ニ對スル臨時手當額ノ三分ノ一トス病氣欠勤等ニ依リ俸給全額ヲ受ケタル者ノ臨時手當ハ本俸ニ對シ其ノ受クル俸給ノ割合ニ依ル

第四條 嚮託員及傭外國人ニハ報酬金ヲ基本トシ文官同待遇官吏ノ例ニ準據シ臨時手當ヲ給ス但シ一時ノ報酬金ヲ給スル者及嚮託員ニシテ本官本職アル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 雇員傭人及職工人夫ニハ給料日給者ハ三百六十五日分又ハ賃錢三百日分ヲ基本トシ文官同待遇官吏ノ例ニ準據シ臨時手當ヲ給ス但シ常備臨時給ノモノヲ含ムニ非サル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 生徒及依託學生生徒ニハ手當初級手當ヲ除ク支給額ノ十分ノ五ノ臨時手當ヲ給ス

第七條 文官ニシテ明治三十三年勅令第三百三十二號ニ依リ恩給額ヲ控除セラレタル俸給ヲ受クル者ノ臨時手當ハ級俸相當ノ俸給ヲ基本トシ又恩給額算定ノ基礎トナルヘキ加俸ヲ受クル者ノ臨時手當ハ加俸ヲ本俸ニ加算シタル金額ヲ基本トシ第三條ノ區別ニ依ル

第八條 本手當支給ノ方法ハ各基本給支給ノ例ニ依ル

第九條 本手當ハ軍人、文官同待遇官吏以外ノ者ニ對シテハ海軍大臣ノ認許ヲ經テ適宜

減給シ又ハ支給セサルコトヲ得

附則

本達ハ大正九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

大正八年達第六十七號臨時手當支給規則及大正八年達第百八十三號判任官以下臨時手當

ノ件ハ之ヲ廢止ス

丙

別表第一

准士官以上及候補生臨時手當表			
區別	年額	區別	年額
各 科 中 將	一、五〇〇〇〇	各 科 特 務 大 尉 一 級	八四〇〇〇
各 科 少 將	一、四三九〇〇	同	七八〇〇〇
各 科 大 佐	一、四三三〇〇	各 科 特 務 中 尉 一 級	七一〇〇〇
各 科 中 佐	一、二〇五六〇〇	同	六七二七〇〇
各 科 少 佐	九五〇二〇〇	各 科 特 務 少 尉 一 級	六一四五〇〇
各 科 大 尉 一 級	八八八二〇〇	同	五七四八〇〇
同	七〇五〇〇〇	候 補 生	三〇五〇〇〇
同	六一四五〇〇	准 士 官 一 級	五〇〇八〇〇
各 科 中 尉 一 級	四七〇〇〇〇	同	四六三八〇〇
同	三六三〇〇〇	同	四二九八〇〇
各 科 少 尉	三〇二五〇〇	同	三八九八〇〇

一、中將ニシテ軍令部長ノ職ニ在ル者ノ臨時手當ハ年額千五百圓トス
 二、中將ニシテ機頭、吳、佐世保ノ鎮守府司令長官ノ職ニ在リ増給ヲ受クル者ノ臨時手當ハ俸給ト合シテ年額七千圓迄ヲ給ス
 三、大佐ニシテ二萬五千圓以上ノ戦艦又ハ巡洋戦艦ノ艦長ノ職ニ在リ若ハ各科大佐タルニト五年以上ニシテ重要ナル職ニ在リ特別俸ヲ受クル者ノ臨時手當ハ年額千四百五十圓トス

別表第二

下士官兵臨時手當表				
區別	甲		乙	
	年額	年額	年額	年額
一 等 下 士 官 一 級	八二〇	六六〇		
同	七六〇	六一〇		
同	六五〇	五二〇		
同	五四〇	四四〇		
二 等 下 士 官 一 級	四五〇	三六〇		
同	四三〇	三四〇		
三 等 下 士 官 一 級	三六〇	二九〇		
同	三四〇	二七〇		
一 等 兵	二四〇	一九〇		
二 等 兵	一八〇	一四〇		
三 等 兵	一六〇	一三〇		
四 等 兵	〇八〇	〇六〇		

送第五十九號

海軍無線電報取扱規則附案第一海軍(艦)名及海軍無線電信所名略符號ノ欄一等懸逐陸
ノ部中沖風ノ次ニ左ノ懸追加ス

大正九年四月十五日

海軍大臣 加藤友三郎

J X S 島 風

六十九

海軍

1957

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

達第六十號

海軍武官任用進級取扱規則中左ノ通改正ス

大正九年四月十六日

海軍大臣 加藤友三郎

「上長官士官」ヲ「佐官尉官」ニ、「高等武官」ヲ「士官特務士官」ニ、「下士」ヲ「下士官」ニ、「卒」ヲ「兵」ニ、「下士卒」ヲ「下士官兵」ニ改ム

第二條中「特務士官」ヲ削ル

第十條中「海軍高等武官進級條例」ヲ「海軍武官進級令以下單ニ進級令ト稱ス」ニ改ム

第十二條 拔擢名簿調製官ハ海軍武官任用令以下單ニ任用令ト稱スニ依リ特務士官ノ任用ニ適スル者ニ就キ拔擢名簿様式如二ヲ、進級令ニ依リ特務士官ノ進級ニ適スル者ニ就キ拔擢名簿様式如二ヲ調製シ在籍鎮守府司令長官ニ進達又ハ移轉スヘシ

第十三條 在籍鎮守府司令長官ハ特務士官任用候補名簿及進級候補名簿様式如二ヲ調製シ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ



前項ノ候補名簿及前條ノ拔擢名簿ハ選修學生教程ヲ經タル者ト經サル者トニ區分シ調製スヘシ

第十四條中「上長官士官」ヲ「佐官尉官特務士官」ニ改ム

第十五條第一項ヲ左ノ如ク改ム

拔擢名簿調製官ハ任用進級試験ヲ終リタル部下士官及一等兵中任用又ハ進級ニ適スル者ニ勤務評點ヲ付與シ此ノ評點ト試験成績、性格、技能、品行等トヲ參酌シテ拔擢名簿様式如二ヲ調製シ之ヲ在籍鎮守府司令長官ニ進達スヘシ

第十六條第一項但書ヲ削リ同條第二項中「上等兵曹ニ任用」ヲ「兵曹長ニ進級」ニ、「各職」ヲ「配置」ニ改メ「充ツヘキ者」ノ下ニ「一等機關兵曹ヨリ機關兵曹長ニ進級スヘキ者」ノ拔擢名簿ハ掌機、掌鐘、掌電機及掌工ノ配置ニ充ツヘキ者ニ「ヲ加フ

第十八條中「准士官任用決定候補名簿及」ヲ削ル

第二十一條 戰時又ハ事變ノ際ハ海軍大臣ハ期限ニ拘ラス佐官、尉官及特務士官ノ任用進級候補名簿又ハ下士官ノ任用進級決定候補名簿ヲ調製セシムルコトアルヘシ

1958

第二十四條中「位勳功」ノ下「准士官」ヲ削ル
第二十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

鎮守府司令長官ハ其ノ鎮守府ニ於ケル下士官ノ所要員ト現員トヲ比較シ其ノ缺員數以
内ニ於テ下士官任用進級員數ヲ定ムヘシ

第二十七條中「任用スヘキ」ヲ「進級セシムヘキ」ニ改ム

第二十八條 下士官ノ任用進級期日ハ五月一日及十一月一日トス但シ准士官ニ進級期日
ハ十一月一日トス

特別ノ事由ニ依リ前項ノ期日ヲ變更スルトキ若ハ臨時ニ任用進級ヲ行フトキハ海軍大
臣其ノ期日ヲ告達ス

鎮守府司令長官ハ准士官ニ進級ヲ行ヒタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第二十九條 戰時又ハ事變ノ際任用令及進級令ヲ召集中ノ豫備役後備役武官ニ適用スヘ
キ場合並進級令第十條第一號第二號第二十條及任用令第二十三條第一號第二號ノ規
定ヲ適用スヘキ場合ハ海軍大臣之ヲ告達ス

七十一 海軍

第三十條第一項第一號中「任用」ヲ「進級」ニ、「實役停年最下期限以上ニ達シ」ヲ「進
級實役停年ヲ有シ」ニ、第二號中「實役停年最下期限以上ニ達シ」ヲ「任用進級實役停
年ヲ有シ」ニ改ム

第三十一條中「進級條例第十九條」ヲ「任用令第二十三條又ハ進級令第十八條」ニ改ム

第三十二條 振擢名稱調製官ハ其ノ部下ニシテ任用令第二十五條、第二十六條若ハ第二
十六條ノ二又ハ進級令第二十一條若ハ第二十二條ノ規定ニ該當スト認ムル者危篤ニ陥
リタルトキハ時機ヲ失セス理由ヲ附シ海軍大臣又ハ鎮守府司令長官ニ報告シ現役滿期
又ハ召集解除ノ爲在籍鎮守府所屬海兵團ニ入團セシムルトキハ意見書^{第六}ヲ調製シ之
ヲ海兵團長ニ移贈スヘシ

海兵團長前項ノ移贈ヲ受ケタルトキハ其ノ部下ニシテ前項ノ規定ニ該當スト認ムル者
ト共ニ之ヲ鎮守府司令長官ニ具申^入シ得テ進級セシムトス

別表第一號中「准士官以下」ヲ「特務士官以下」ニ、「^{特務}准士官以下」ニ、^{特務}准士官ニ改

ニ、特務武官府及東宮武官ノ欄「將官タル」ヲ「首席」ニ改

陸軍

海軍

海軍

海軍

海軍

海軍

1959

ニ教育本部ノ欄「教頭」ノ次ニ主任補佐ヲ加ヘ備考上欄中二號及三號ヲ左ノ如ク改メ

下欄一號及二號中「准士官」ヲ「特務士官准士官」ニ改ム

二、海軍大臣ニ直屬スル佐官尉官タル廳長、海軍省文庫主管又ハ駐在員ノ拔擢名簿調製官ハ次官トス

三、首席侍從武官又ハ首席東京武官將官タラザルトキ其ノ拔擢名簿調製官及候補名簿調製官ハ人事局長トス

別表第二號中准士官ノ欄「十月一日」ヲ「九月二十日」ニ、「下士官ノ欄」四月一日「三月十日」ニ改メ左ノ備考ヲ加フ

備考
選修學生タル准士官ニ付テハ卒業期日二十日附近ニ任用拔擢名簿ヲ、同十日附近ニ任用候補名簿ヲ夫々進達移送スヘシ

様式第一中「上長官士官」ヲ「佐官尉官(特務士官)」ニ、「海軍主計少監」ヲ「海軍主計少佐」ニ改メ「實役停年」ノ上ニ「拔擢順序」ノ一欄ヲ加ヘ備考欄ヲ左ノ如ク改ム

一、所見ハ要スルトキノミ記載スヘシ

様式第二中「兵曹長」ヲ「特務少尉」ニ、「海軍上等兵曹」ヲ「海軍兵曹長」ニ改メ備考欄「一」ヲ削リ「二」以下ヲ順次繰上ク

様式第三中「兵曹長」ヲ「特務少尉」ニ改メ備考「一」ヲ削リ「二」以下ヲ順次繰上ク

様式第四中「上等兵曹」ニ任用スヘキ「ヲ」兵曹長ニ進級セシムヘキ「ニ」改メ「海軍准士官」下士任用進級條例第五條「ヲ」削ル

様式第五中「准士官任用(下士任用、進級)」ヲ「下士官進級任用」ニ改ム
様式第六中備考一號ヲ左ノ如ク改メ二號中「海軍准士官下士任用進級條例第十七條」ヲ

「任用令第二十六條ノ二及進級令第二十一條、第二十二條」ニ改ム
一、兵曹長、機關兵曹長ニ進級セシムヘキ者ニ在リテハ本則第十六條第二項ニ準シ充

ツヘキ配置ノ區分ヲ入籍番號ノ上ニ記載スヘシ

第六十一號

大正三年十月達第四百十八號海軍建築工事規則中左ノ通改正ス

大正九年四月十六日

海軍大臣 加藤友三郎

第七條第一項第六號ノ次ニ左ノ但書ヲ加フ

但千圓未満ノ新營工事ニ對シテハ第三號、第四號ノ圖書ヲ省略スルコトヲ得

第八條第一項中「新營工事及千圓以上ノ修繕工事」ヲ「千圓以上ノ新營及修繕工事」ニ改ム

同 條第二項中「修繕工事」ヲ「新營及修繕工事」ニ處理スルコトヲ得「處理スルモノ

トス」ニ改ム

第六十二號

艦船造修試驗検査規則中左ノ通改正ス

大正九年四月十六日

海軍大臣 加藤友三郎



七十三

海軍

附屬様式目錄中第十六號様式機裝品目錄中左ノ如ク改ム

第八類 「下水留」ノ次ニ「消毒水罐」ヲ加フ

第十類 「傷者昇降器」ノ次ニ「運炭車」ヲ加フ

第十七類 「血動搖止」ノ次ニ「衝立」狀差(但シ初度ノミ供給)「名刺挿」(但シ初度ノミ供給)

給)「掛板(時計、晴雨計、寒暖計、傾斜計用)」ヲ加フ

第十八類 「棚」ノ次ニ「道板」(但シ上甲板用トシテ初度ノミ供給)「ヲ加フ

第十九類 「箱」ノ次「下水留」ヲ削リ「硝子類」ノ次ニ「窓網」(但シ公室、病室ノミニ供給)「

ヲ加フ

第二十類 「標的」ノ次ニ「箆」(但シ初度ノミ供給)「ヲ加フ

1961

達第六十三號

商船學校機關科學生海軍工廠修業概則中左ノ通改正ス

大正九年四月十九日

海軍大臣 加藤友三郎

第五條 學生ノ人員ハ横須賀海軍工廠ニ在リテハ約六十名其ノ他ノ工廠ニ在リテハ二十
五名以内トス

第六條 學生ノ修業期限ハ横須賀海軍工廠ニ於テハ約二箇月其ノ他ノ工廠ニ於テハ約六
箇月トス

病氣其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤シタルトキハ其ノ日數ヲ限り修業期間ヲ延長スルコトヲ
得但シ期間中ト雖商船學校長ノ請求ニ因リ退廠セシムルコトアルヘシ

第七條 學生ノ修業ハ工場及艦船ニ於テ製造又ハ修理工事ニ從事セシムルモノトス其ノ
工業科目ハ横須賀海軍工廠ニ於テハ銅工及電氣工業トシ其ノ他ノ工廠ニ於テハ仕上組
立及旋盤トス

七十四

海軍

第十三條中「第六條ノ缺勤日數ノ程度第七條ノ各科目修業期間ノ伸縮」ヲ削ル

1962

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

達第六十四號

鑿船鑑定期水壓試驗定期切開試驗並鑿通試驗規則中左ノ遂改ム

大正九年四月二十日

海軍大臣 加藤友三郎

第四條 定期切開試驗ノ爲試驗ニ供スヘキ罐ハ罐管衰弱ノ状態及其ノ命數ヲ認定スルニ必要ナル範圍ニ於テ凡ソ一罐室ニ付一罐又ハ四罐ニ付一罐ノ割合ヲ以テ最衰弱セリト認メタル罐ヲ指定シ又罐管ハ火焰ノ直衝ヲ受クル管列ニ於テ二本以上及該管列ヨリ最遠キ管列ニ於テ一本以上又過熱器ヲ備フル罐ニ在リテハ過熱管一本以上ヲ選定スヘシ但シ特ニ必要ト認ムルトキハ前記管列ノ中間管列ニ於テ適宜ノ數ヲ選定スルモノトス

第六條 鑿通試驗ノ爲試驗ニ供スヘキ罐ハ其ノ衰弱ノ状態ヲ判定スルニ必要ナル範圍ニ於テ凡ソ一罐室ニ付一罐又ハ四罐ニ付一罐ノ割合ヲ以テ最衰弱セリト認メタル罐ヲ指定シ必要ナル局所ヲ鑿通検査スヘシ

但シ圓形ナラサル水「ドラム」ヲ有スル罐ニ在リテハ該水「ドラム」胴板ト管板トノ

七十五

海軍

繼目部、又宮原式罐「ドラム」ニシテ周縁屈曲セル半圓狀鏡板ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ屈曲部ニ於テ溝蝕又ハ破裂ヲ認メタル場合ニ限リ必ス筒錐ヲ使用シ試験片ヲ拔取り検査スルモノトス

達第六十五號

鑿通鑿矢風ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

大正九年四月二十日

海軍大臣 加藤友三郎

G Q H Z

矢風

正 誤

達第四十三號第九條中時變ハ事變ノ誤

大正九年四月二十日

海軍省副官

1963

達第六十六號

雇員傭人規則中左ノ通改正ス

大正九年四月二十一日

海軍大臣 加藤友三郎

第三條表中機關手ノ次ニ左ノ一行ヲ加フ

坑 手 採炭所

第三條表中電話丁、看護婦ノ欄中「海軍」ヲ創除ス

達第六十七號

雇員傭人給與規則中左ノ通改正ス

大正九年四月二十一日

海軍大臣 加藤友三郎

七十六

海軍

第二表日給一圓三十錢ノ欄「機關手」ノ次ニ「坑手」ヲ加フ

1964

透第六十八號

大正二年透第六十四號中「潜水艇及雜役船」ヲ「潜水艦、特務艇及雜役船」ニ改ム

大正九年四月二十二日

海軍大臣 加藤友三郎

参照 大正二年透第六十四號ハ艦船ノ定額區域等ニ關スル件ナリ

七十七

海軍

1965

通第六十九號

雜役船及除籍艦艇取扱規則中左ノ通改正ス

大正九年四月二十二日

海軍大臣 加藤友三郎

「雜役船及除籍艦艇取扱規則」ヲ「特務艇、雜役船及除籍艦艇取扱規則」ニ改ム

第一條中「雜役船」ヲ「特務艇、雜役船」ニ改ム

第二條第一項中「保管雜役船ノ現状報告」ニ通「ヲ」保管特務艇、雜役船ノ現状報告ヲ特務艇及雜役船ニ區別シ各ニ通「ニ、」但シ救難船「ヲ」但シ特務艇、救難船「ニ、」第二項中「所屬雜役船中」ヲ「所屬特務艇及雜役船中」ニ改ム

第三條中「雜役船機關」ヲ「特務艇及雜役船機關」ニ改ム

第四條第一項中「所屬雜役船」ヲ「所屬特務艇及雜役船」ニ改ム

第五條第一項中「還納船艇」ヲ「還納特務艇、雜役船」ニ、船種「ヲ」艇種、艇名、船種「ニ、」還納雜役船「ヲ」還納特務艇及雜役船「ニ、」第二項中「雜役船」ヲ「特務艇、雜役船」ニ改ム

第六條第一項中「還納船艇」ヲ「還納特務艇及雜役船」ニ改ム

第八條第一項中「還納船艇」ヲ「還納特務艇、雜役船」ニ、第二項中「船艇」ヲ「特務艇、雜役船」ニ改ム

第九條中「保管ノ雜役船」ヲ「保管ノ特務艇及雜役船」ニ改ム

第十一條中「保管ノ雜役船若ハ其ノ雜役船」ニ「ヲ」保管ノ特務艇、雜役船若ハ之ニ「ニ」改ム

第十二條中「還納」ハ「キ船艇」ヲ「還納」ハ「キ特務艇及雜役船」ニ、「其ノ船艇」ヲ「當該船艇」ニ改ム

第十三條中「水雷艇又ハ潜水艇」ヲ「潜水艇又ハ水雷艇」ニ改ム

第十七條中「特務船」ヲ「特務艇」ニ改ム

(甲)樣式(中)「雜役艦現狀報告」ヲ「特務艇現狀報告」ニ、「船名又ハ、公稱番號」ヲ「公稱番號」ニ、「船種」ヲ「艇種」ニ改ム

(丙)樣式(中)「船種船名」ヲ「艇種、艇名」ニ改ム

達第七十號

明治四十二年達第六十九號中「潜水艇及雜役船舟」ヲ「潜水艦、特務艇及雜役船」ニ改ム
大正九年四月二十二日 海軍大臣 加藤友三郎

參照 明治四十二年達第六十九號ハ總務廳海軍部同水雷艇潜水艇雜役船舟ノ定款港區域ニ關スル件ナリ

達第七十一號

大正二年達第十號中「軍艦、驅逐艦、水雷艇及潜水艇以外ノ船艇」ヲ「艦艇、特務艦艇以外ノ船艇」ニ改ム
大正九年四月二十二日 海軍大臣 加藤友三郎

參照 大正二年達第十號ハ軍艦驅逐艦水雷艇及潜水艇以外ノ船艇船艇上ノ呼稱ノ件ナリ

達第七十二號

航泊日誌取扱及記載心得中左ノ通改正ス

大正九年四月二十二日

海軍大臣 加藤友三郎

第一條中「水雷艇及潜水艇」ヲ「潜水艦、水雷艇及特務艦」ニ改ム

第五條中「水雷艇及潜水艇」ヲ「潜水艦及水雷艇」ニ改ム

第七條中「艇隊及潜水艇隊」ヲ「潜水隊及艇隊」ニ改ム

第八條第一項中「水雷艇及潜水艇」ヲ「潜水艦及水雷艇」ニ、「水雷團」ヲ「防備隊」ニ、第二

項中「軍艦籍」ヲ「艦艇籍」ニ改ム

第十條第一項第二項中「潜水艇」ヲ「潜水艦」ニ改ム

第十條ノ二 特務艦ニ付テハ前諸條中軍艦ニ關スル規定ヲ準用ス

第十九條イ、號十(四)中「下士卒」ヲ「兵員」ニ改ム

「三、航泊日誌丙ノ部(潜水艇用)」ヲ「三、航泊日誌丙ノ部(潜水艦用)」ニ改ム

海軍第七十三號

海軍無線電報取扱規約附表第一海軍艦(船)名及海軍無線電信所名略符號ノ綴一等艦艇艦
ノ部中島風ノ次ニ左ノ遙追加ス

大正九年四月二十四日

海軍大臣 加藤 友三郎

J X P

矢 風

海軍第七十四號 鉄號

(自八十一
至八十五 鉄頁)

八十

(海軍第七十一號)

海 軍

1968

達第七十五號

海軍特務士官准士官配屬令規則中左ノ通改正ス

大正九年四月二十七日

海軍大臣 加藤 友三郎

第三條中「及准士官ニシテ教員」ヲ削ル

正 誤



本年達第六十號海軍武官任用進級取級規則改正中第二十九條「進級令第十七條」ノ「進級令第十八條」第三十二條第二項中「具申シ認許ヲ得テ進級セムトヘシ」ハ「具申スヘシ」ノ
誤ニモ誤

大正九年四月二十七日

海軍省 副官

八十六

海軍

1969

達第七十六號

大正六年達第六十二號臨時増給支給規則中左ノ通改正ス

大正九年四月二十七日

海軍大臣 加藤友三郎

第一條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四、關東州ニ在勤スル判任官以下ノ軍人軍屬ニハ在勤加俸又ハ在勤増給ノ十分ノ三

第二條第四號ヲ削ル

第三條第二號及第三號中「十分ノ七」ヲ「十分ノ十」ニ改ム

附 則

本達ハ大正九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

達第七十七號

左記諸給與ニ付各定額ノ五割ニ相當スル金額ヲ臨時手當トシテ支給ス

八十七

海 軍

前項手當支給ノ方法ハ各基本給支給ノ例ニ依ル

本達ハ大正九年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

大正九年四月二十七日

海軍大臣 加藤友三郎

左 記

一、在勤加俸(給與令第二十三條ニ依ルモノ)、在勤増給(雇員給與規則第九條ニ依ルモノ)

二、航海加俸(給與令第二十七條乃至第二十九條ニ依ルモノ)、航海増給(雇員給與規則第十條ニ依ルモノ)

但シ揚子江沿岸警備ノ艦船及警備ノ爲特ニ支那沿岸ニ派遣セラレタル艦船並山東省及關東州所在部隊附屬艦船ヲ除ク

三、特別加俸(給與令第三十四條ニ依ルモノ)

四、需品支庫手當(給與令第三十七條ニ依ルモノ)

五、勞働手當(給與令第五十二條乃至第五十四條ニ依ルモノ)

1970

第七十八號

海軍各艦隊番號期申左ノ通稱正ス

大正九年四月二十九日

海軍大臣 加藤友三郎

第十一條ノ二 公文書ノ符名ニハ總稱ニ對シテハ艦下、其ノ他ノ人ニ對シテハ艦ノ敬稱ヲ記スルモノトス

八十八

海軍

1971

達第七十九號

大正七年達第百二十九號海軍大學校規則中左ノ通改正ス

大正九年四月二十九日

海軍大臣 加藤友三郎

第十條及第十二條中「部下將校」ヲ「部下兵科將校」ニ改メ第十條中第二號ヲ左ノ通改ム

一、海軍大尉ニ任官後六箇年以内ノ者但シ受験同數ハ三回限トス

駐在又ハ外國出張ノ爲全ク受験ノ機會ナカリシモノハ前項ノ年限ヲ七箇年ト爲ス

コトヲ得

第十三條中「部下機關將校」ヲ「部下機關科將校」ニ改ム

八十九

海軍

1972